

授業概要

哲学的な思考の源流は古代ギリシア哲学に見出すことができます。従って、西洋思想史をしっかり理解するためには、古代ギリシア哲学から出発するのが王道であると言えます。本コースでは、古代ギリシア哲学に関する主要トピックを一つ一つ学びながら、哲学特有の用語法や問題設定に習熟していきます。細々とした知識を暗記するよりも、各トピックにおける根本的な考え方を学習することに重点を置きたいと思っています。第一回から第九回にかけては、古代ギリシア哲学の主要思想（ソクラテス以前の自然哲学と存在論・ソクラテスの思想・プラトン哲学・アリストテレスの知の体系）についてお話しします。第十回でヘレニズム哲学からルネサンス哲学に至るまでの古代ギリシア哲学の受容と展開を概観した後、第十一回から第十五回までは、真理・知・倫理・政治・芸術・科学といった諸問題をめぐって、近代の一連の哲学的思索が古代ギリシア哲学に対していかに応答したかを簡単に辿っていきます。

授業計画

第 1 回	イントロダクション/ミレトス学派の自然哲学
第 2 回	ピタゴラス派とヘラクレイトス
第 3 回	エレア学派：パルメニデスと彼の後継者たち
第 4 回	パルメニデス以後の自然哲学とソフィスト
第 5 回	ソクラテス
第 6 回	プラトン（1）
第 7 回	プラトン（2）
第 8 回	アリストテレス（1）
第 9 回	アリストテレス（2）
第 10 回	古代ギリシア哲学の受容と展開：ヘレニズム哲学からルネサンス哲学まで
第 11 回	古代ギリシア哲学の近代哲学史における意義（1）：真理
第 12 回	古代ギリシア哲学の近代哲学史における意義（2）：知
第 13 回	古代ギリシア哲学の近代哲学史における意義（3）：倫理
第 14 回	古代ギリシア哲学の近代哲学史における意義（4）：政治
第 15 回	古代ギリシア哲学の近代哲学史における意義（5）：科学と芸術/総括
第 16 回	最終試験

到達目標

本コースでは二つの主要目標を定めたいと思っています。第一の目標は、古代ギリシア哲学において、どのような立場がいかなる背景のもとに主張されてきたのかについて簡潔かつ体系的な知識を習得することです。ここでは各思想の優れた点や批判すべき点も含めた思想史的意義をしっかりと理解することが大切です。第二の目標は、古代ギリシア哲学がその後現れた様々な哲学思想にどのような影響を及ぼしたかという観点から、哲学史の大まかな流れをつかむことです。これによって、表面的な知識の寄せ集めに留まらない西洋思想史の本質的な理解が可能になるはずで、以上に加えて、授業を通じて心に芽生えた哲学的な関心を各自が大切に育てつつ、自らの興味に沿って今後さらなる探求を行なっていくための土台が築かれた暁には、本コースの目標は十全に達成されたと言えるでしょう。

履修上の注意

予備知識は特に必要ありませんが、高校の倫理の教科書ないしネット上の情報源を用いて、コース開始前に西洋思想史の概略を掴んでおくと、理解度が格段に高まるはずで、原則として毎回出席し、集中して聴講してください。授業自体は通常の講義方式で行いますが、ディスカッションに重点を置くことで、主体的な参加を促すつもりです。授業中や授業後の質問や反論を大いに歓迎します。考えることの喜びを知る機会となることを切に願っています。

予習・復習

毎回授業の最後に、復習のための簡単な質問を与えます。

評価方法

中間レポート（30%）、最終試験（70%）の総合評価とします。

テキスト

適宜プリントを配布します。意欲のある学生には別途参考文献を指示します。